

“今週の国際宇宙ステーション (ISS)”

☆最初のISS構成要素打上げから1663日経過しました
 ☆第7次長期滞在クルーのISS滞在は43日経過しました

☆ISS動向

ユーリ・マレンチェンコとエドワード・ルー両宇宙飛行士は、緊急医療手術の練習を行いました。これは全ての長期滞在クルーに義務づけられている訓練です。また、マレンチェンコ宇宙飛行士はロシアモジュールの換気システムの点検と清掃を行いました。

第7次長期滞在クルーは2名のため、船外活動を行う予定はありませんが、米国時間5月28日(水)には、2人のクルーだけで船外活動用宇宙服の着脱ができるかテストを行いました。

☆プログレス補給船 (11P) 打上げ

ISSへの物資補給を目的としたプログレス補給船がソユーズロケットにより、日本時間6月8日(日)午後7時34分、バイコヌール宇宙基地(カザフスタン共和国)から打ち上げられました。プログレス補給船はISSに水、食料や予備品など約2,404キログラムの補給物資を運びます。

ISSとのドッキングは、日本時間6月11日(水)午後8時17分頃の予定です。

詳細はこちらをご覧ください。

<http://jem.tksc.nasda.go.jp/iss/supply/11p/index.html>



点検を受けるプログレス補給船(カザフスタン共和国) ©Energia



射点に運ばれるソユーズロケット(カザフスタン共和国) ©Energia



ソユーズロケットの打上げ(カザフスタン共和国) ©Energia



食事の準備をするマレンチェンコ宇宙飛行士



デスティニーでのルー宇宙飛行士



宇宙服の着脱テストを行う両宇宙飛行士

“今週の「きぼう」”

☆「きぼう」船内実験室、ケネディ宇宙センターへ搬入

5月2日に横浜港を出発後、日本時間5月30日(金)にポートカナベラル港に到着した「きぼう」日本実験棟の船内実験室は、6月4日(水)、NASAケネディ宇宙センター(KSC)への搬入が終了しました。

また、船内実験室と同じ時期にイタリア宇宙機関(ASI)が製作した第2結合部(ノード2)もイタリアからKSCへ空輸されました。今後、ASIによる運搬後審査を経て欧州宇宙機関(ESA)に引き渡され、その後NASAに引き渡されます。

船内実験室は、ノード2を介してISS本体と結合されます。なお、ノード2には生命科学実験施設(セントリフュージ)や欧州実験モジュール(COF)なども取り付けられます。

NASAでは、NASDA、ESA、ASIの代表を招き、米国時間6月18日(水)に、船内実験室とノード2のKSC到着を祝う歓迎式典を開く予定です。

今後、船内実験室はおおよそ1ヶ月半かけて試験機器とともにKSCの宇宙ステーション組立試験施設(SSPF)に設置され、8~9月に予定されているノード2との適合性確認試験(Multi-Element Integration Test-III: MEIT-III)に備えます。

船内実験室輸送に関してはこちらをご覧ください。

http://jem.tksc.nasda.go.jp/iss/kibo/develop_status_36.html



ポートカナベラル港で船内実験室を出迎える野口宇宙飛行士(5月30日)



外航船からトレーラに移される船内実験室(6月4日)



イタリアから空輸されたノード2(6月2日)



SSPFに設置されたノード2(6月3日)



トレーラでKSCに運ばれる船内実験室(6月4日)

2003年10月1日から宇宙開発事業団は独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)に移行します。

問い合わせ先: 宇宙開発事業団 宇宙ステーション・きぼう広報・情報センター TEL: 029-868-3074

ISS・きぼうホームページ <http://jem.tksc.nasda.go.jp/> Eメール kibokoho@nasda.go.jp

※「ISS・きぼうウィークリーニュース」に掲載された記事を転載する場合、本ウィークリーニュースから転載した旨を記述ください。